

金沢における市民と取り組む 創造的なまちづくりについての研究

ークリエイティブツーリズム＋チャリdeアート＋町家ドミトリーー
Art and Urban Planning with Creativity as Civic Activity: Case Study in Kanazawa

坂本 英之
SAKAMOTO Hideyuki

はじめに

現在、芸術などの文化活動が都市の個性化やコミュニティ再生のプロセスに欠かせない存在となりつつある。それは、芸術などの文化活動が異なった多くの利害関係を有する個人や集団に対して効果的な貢献を成し得るといふ潜在的な能力を持っていることが実証されはじめているからである。芸術などの文化活動が、これからのまちづくりにおいて、その潜在的な能力をいかに引き出せるかは、その実態を把握することと現場としての都市の置かれた状況を把握するかに掛かっていると言える。ここでは、金沢という歴史的都市をフィールドにして研究室が取り組む、市民活動としての創造的な（クリエイティブな）まちづくりに関する社会実験の事例を通じて、芸術などの文化活動が都市のコミュニティを蘇生させる手法の手立てとなり得るかを考察するものである。

クリエイティブなまちづくりの潮流

クリエイティブなまちづくりを考えた場合、都市計画家の立場からだけではなく、アーティスト等のクリエイターの立場からのアプローチも必要だ。都市再生の場面ではコンバージョン、リノベーションという手法が見られる。これをアートの側から見るとオルタナティブスペースと呼ぶ。現代アートシーンでは、使われなくなった工場や、町家、銀行など、本来アートを展示する空間ではない場所を制作や展示のための空間、すなわちオルタナティブスペースを芸術創造の場と位置づける試みが世界的な流れの一つになっている。その萌芽はすでに1970年代のアメリカに見られ、ポストモダニズムの思潮を背景に欧米各地そして日本、アジアに広がり、現在に至っている。ニューヨークのSOHOや北京の798芸術区がその例としてよく知られている。

美術館やギャラリーなど作品を純粋な状態で鑑賞するために設えられた所謂ホワイトキューブでの制作展示に飽き足らなくなったアーティスト達、また既存のアートワールドに入りきれず美術館や商業ギャラリーでの発表が困難な若く無名なアーティスト達、彼らにとってオルタナティブスペースは、新たな表現を模索するためのそして作品を発表するための格好の場として機能する。それはまた、廃屋や空き家を提供する住民にとっては、作家が地域に入り活動することによって地域が活性化することを期待できる。

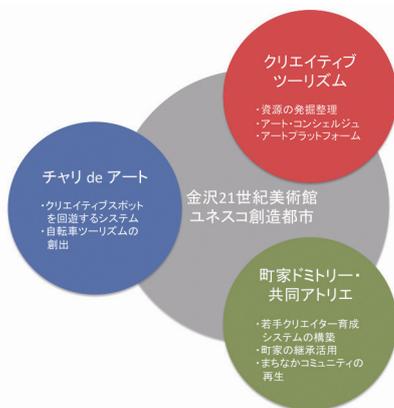


図1：金沢における創造的なまちづくりの概念図

アートと生活双方の思惑が重なって成立したオルタナティブスペースにおいて、アートと地域住民は今までにない形で接近することになった。スペースの活用や作品の制作などをめぐってアーティストと住民は否応無しに、コミュニケーションを取らざるをえなくなるからである。このことは作品を制作することの意味、作品を鑑賞することの意味、ひいてはアートそのものの意味を根本的に問い直すことを要請する。

オルタナティブスペースの他、リレーショナルアートやサイトスペシフィックアートのシーンも変化して今日のまちづくりとの関係をつくりだしている。リレーショナルアートは、アートの持つもう一つの力、様々なものをつなぎとめる働きを持つアートの特徴をうまく生かした活動である。人と人の繋がりを重視し、積極的に触れあいと関係性を生み出す。またサイトスペシフィックアートは、場の固有性を重視した創作活動で、その場所にしかない特徴的な様相を捉えて作品化していく。

金沢には加賀藩以来の歴史的町並みと伝統が生き続けていると同時に、金沢21世紀美術館の開館に見られる新たな文化の発信を目指すエネルギーが存在している。このような都市空間をアートフィールドと捉え、産学官が連携しあって創造的まちづくりが胎動し始めている。

創造都市金沢と市民活動の開始

金沢市におけるアートとまちづくりの関係は、2004年10月に開館した金沢21世紀美術館の存在抜きには語れない。同美術館は、宇宙から歴史都市金沢に舞い降りた宇宙船のような存在ともいえる。伝統と格式に満ちたローカルな地にグローバルな異物として今まさに足を付けたかのように見える。年間150万人の集客力を誇る兼六園に匹敵する文化施設が、金沢のアートシーンを確実に変えたといえる。しかし、それを受け入れた地元のアーティスト、工芸作家、デザイナーを総体的に捉えたとき、金沢における内発型のアートの発信力が一段と高まるもの

と期待される。

金沢市は金沢21世紀美術館開設を皮切りに、様々な文化的な施策を展開し、2009年6月にはユネスコ創造都市ネットワークのクラフト部門に登録された。それを受けて市内の工芸工房などを巡る「クラフトツーリズム」等の活動も行っている。

本稿で紹介する「クリエイティブツーリズム」や「チャリdeアート」などのプロジェクトは、行政が取り組んでこなかった点を市民サイドが押し進める活動であり、同年動き出した。まちづくりとアートを繋ぐ拠点を設立するためにNPO法人金沢アートグミが設立され、アートシーンを回遊するオリジナル自転車をレンタルするNPO法人金沢アートチャリ推進機構も設立された。クリエイティブツーリズム実行委員会は翌2010年に活動を開始した。現在はNPO法人金沢クリエイティブツーリズム推進機構に活動を統合している。

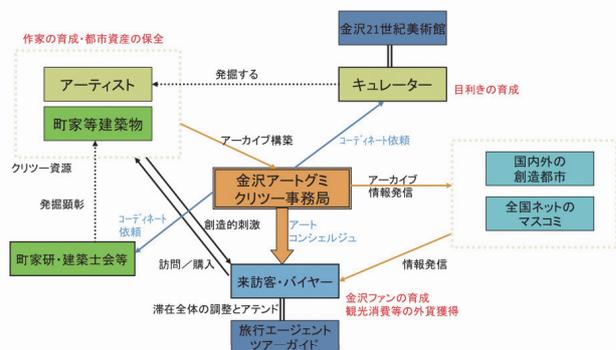


図2：クリエイティブツーリズム概念図

クリエイティブツーリズム

金沢21世紀美術館のコンセプトは「街に開かれた美術館」だが、美術館観客の市内への流出は十分といえない。一方、市内にはアート&クラフトの工房やギャラリー、町家や茶室、庭園、用水などの都市資産が多数点在しているが、来訪客に対して情報が一元化されて提示されていない。そこで、「クリエイティブツーリズム」（創造性や技術の集積を巡る旅：以下「クリツー」と銘打ち、金沢21世紀美術館からまちなかへ回遊を促そうという試みであり、以

下のプログラムを実施した。(2010年文化庁「文化芸術創造都市モデル事業」の支援を受けた社会実験である)

事業プログラムは「オープNSTAジオデー」「アトリエ・建築訪問」「アートコンシェルジュ」の3つで、いずれも普段は入ることができない場所を訪れることが魅力である。

① オープンスタジオデー

金沢在住のアートや工芸の作家、デザイナー達のスタジオやアトリエを、期間限定で開放するプログラム。参加者は、自由に気の向くままに訪ね、作家達との会話を楽しむことができる。終了後、参加作家等を交えての意見交換会(クロージングパーティ)を開催、参加アーティスト等によるプラットフォーム構築(後述「クリエイティブプラットフォーム」というさらなる目標のための布石でもある。



写真1：クリエイティブツーリズムのフラッグ(オープンスタジオのサイン(目印)として使われている)

② アトリエ・建築訪問

金沢の創造的な場所に専門家のガイドによるパッケージツアー「金沢アトリエ訪問」および「金沢建築訪問」を企画・運営している。約半日かけて10~15名程度の参加者が作家アトリエ、建築、茶室等を訪ねている。ガイドにはアート、工芸、建築などの専門家が就き、作家や作品の魅力を伝えてもらうと同時に、専門家と作家が出会う機会となる。

金沢建築訪問 Vol.10 3.28 [SAT] 金沢市内

金沢まちなみツアー | Kanazawa Architecture Visit

大正時代の商家を改修して誕生した「金沢学生のまち市民交流館」をスタートに、毎月用水に沿って、こまちなみ保存区域を巡ります。まちなみとともに、歴史ある建物やリノベーションされた新たな空間へと生まれ変わった様々な建物を建築家やスペシャリストとともに巡ります。

Schedule スケジュール

3.28 SAT 13:00-14:45 参加無料

13:00 金沢観光ボランティアガイド まいどせん / 武野 一雄 金沢理工芸会館 ほうとう川軒表ヤイスター

13:00 金沢建築訪問 建築家 建築家

13:00 金沢アトリエ訪問 アトリエ アトリエ

14:45 八幡久屋茶室 茶室 茶室

14:45 水鏡アトリエ アトリエ アトリエ

14:45 放牧館 放牧館 放牧館

14:45 金沢学生のまち市民交流館 建築家 建築家

Guide ガイド

●ガイド 金沢観光ボランティアガイド まいどせん / 武野 一雄 金沢理工芸会館 ほうとう川軒表ヤイスター

●コーディネーター 釣谷建築事務所 / 古橋 孝美

[関連イベント]

講演会 第3回「新幹線がもたらすもの」 3.28 (土) 15:00-17:40 (参加無料・事前申込制)

[ツアーと合わせて、ぜひご参加ください。] (詳しくは裏面参照)

主催:公益社団法人日本建築家協会 北陸支部 石川地域会

お問い合わせ/申込み | Inquiries

(公社)日本建築家協会 北陸支部 事務局 メール: mail@jia-hokuriku.org もしくは FAX 076-229-7208にて、お名前、ご連絡先、参加希望人数をお知らせ下さい。

ツアー日時 2015年3月28日(土) 13:00-14:45

集合/解散 金沢学生のまち市民交流館(金沢市片町2-17)

参加費 無料 定員 15名(先着順・要申込み)

お問合せ: TEL 076-229-7207 メール: mail@jia-hokuriku.org

図3：建築訪問案内フライヤー



写真2：アトリエ訪問のシーン

③ アートコンシェルジュ

訪問客の要望を伺い、作家等とコンタクトを取ってスタジオ見学のアレンジをし、オーダーメイドツアーを提供するプログラム。完全予約制のアトリエ・建築見学である。提携している市内のホテルのコンシェルジュと連携し、宿泊客により豊かな滞在

体験を提供することを目指している。

これらの活動に平行して、参加作家及びアトリエ、建築、茶室や庭園等のアーカイブの構築を行い、金沢アートグミにおいて一部公開を始めている。

始動した3年間、文化庁の活動支援を受け、上記3つのプログラムを本格的に運営するとともに、アーティスト同士が交流し社会活動につながっていく場「クリエイティブプラットフォーム」を構築した。



写真3：オープンスタジオデーの風景

チャリdeアート

NPO法人金沢アートチャリ推進機構が取り組むコミュニティサイクル（自転車）プロジェクトとしてスタートした。金沢21世紀美術館とまちなかのアートスポットを回遊するための自転車の試作やそのレンタルシステムの開発を行い、金沢まちなかを巡る快適な自転車ツーリズムの創出を目指している。

金沢市では「歩けるまちづくり」を標榜し、自転車交通の推進もうたっており、2011年に「市民向けレンタサイクル」の社会実験を行い、2012年3月から「まちなか」による実際の供用を開始した。これらはパリのベリブ方式ののっとり、市内18カ所に無人サイクルポートを設置し、廉価で自転車を貸し出すシステムである。

これに対して、アートシーンを巡るのに相応しいお洒落な自転車を追求しているのが「チャリdeアート」である。大学と民間企業の協働作業で、金沢オリジナルのデザインと運用システムの研究開発に取り組み、国内外に向けて情報発信を行っている。この背景として、まちなかの複数会場でアート作品を

展示した「アナザームーブメント」(2004・2005年市民主体の企画)や「アートプラットフォーム」(2008年同美術館主催)において、展示会場を巡るにはレンタサイクルが欠かせないことが認識されたため、レンタサイクルの社会実験を大学生らが実施したことに端を発する。

2009年秋に第一次モデル試作車を制作し金沢21世紀美術館内で試乗展示した。その後、裏路地など自転車でしか回れないような金沢固有の場所を厳選したモデルルートを設けてガイドツアーの社会実験を行い、自転車走行の安全性や魅力を確認した。また、県内にあるIT企業からの提供を受けたGPSロガーを使って走行軌跡を地図上にプロットして利用者に手渡す社会実験なども行ってきた。2012年からレンタサイクルを本格的に運用するとともに、「本日ペダルの日(仮称)」を定めて、市内の自転車活動グループや一般利用者に自転車で移動していただく活動を呼びかけている。



写真4：チャリdeアートで金沢のアートシーンを巡る



図3：金沢チャリMAP

町家共同アトリエ

金沢が持つ都市資産として重要なのが「金澤町家」である。遊休化している町家を「共同アトリエ」として活用する市民活動も昨年からはじめた。NPO法人金澤町家研究会は2005年から活動を開始し、既に多くの実績を残してきた。それを補完するかたちで、一般社団法人金澤町家ドミトリー推進機構が、市内に点在する空き町家を借り受けて学生寮やアーティストがシェアするもので、開始当初はドミトリーとして活用することを目的として発足したが、現在はアーティストの共同アトリエとしての借用へも事業を展開している。

町家共同アトリエ第1号は、染物屋だった建物で、工場と住まいと土蔵が一体となっており、延べ床面積115坪の大きな町家である。この町家に一人住んでいた居住者（高齢の女性）は、『冬が寒くて耐えられない、広い空間を持てあましていた』と語っていたので、近くの集合住宅に移住・住み替えしてもらい、その町家を定期借用することにした。この移住・住み替えによる町家の活用（リバースモーゲージ）は、全国でも初の試みである。

市内の町家居住者（所有者）やアトリエを求めている方々に、町家のシェア型活用の可能性を広く告知するために、アトリエオープンに至るイベント型のプロセスを取った。まず、町家空間で所蔵品やアート作品を展示する「マチヤイロ」を開催し、次にお掃除と不要品を処分するワークショップ「おくりいえプロジェクト」を実施し、合計で500名近い方が町家に足を運んだ。その来訪者の中から入居者数名が現れたことは大きな成果であった。

また、事業実施体制では、アーティストの情報収集・情報発信に関しては、NPO法人金沢アートグミおよび金沢美術工芸大学と連携し、町家の改修および有効活用に関しては、LLP金澤町家とNPO法人金澤町家研究会と連携することにより、実効性のある活動を展開することに留意した。

作家達の需要に応じて2軒目が2012年入居している。廃業された町家を機構が借り受けて共同アト

リエとして提供する。そのときの条件として、構造や雨仕舞い、上下水道、ガスなどの生活インフラの基本部分以外は、できるだけ現状のままの状態で借り受ける。空間的にアーティスト・クリエイターの想像力を喚起するためであると同時に家主の負担を減らし廉価な家賃へと繋げるためである。その代わりに、アーティストが創造的に自由に造作を変えても良いこととし、かつ退去時の現状復帰も不要としている。



写真5：町家のお掃除WS「おくりいえ」



写真6：町家共同アトリエの前にて



写真7：町家共同アトリエの土蔵における染色作家作業場

まとめ

アート・工芸・デザインによる芸術活動が持つあらゆる事象を繋げるリレーショナルな側面や創造性とローカルな地域固有性との融合が、市民サイドが繰り広げるクリエイティブなまちづくりの実践の中で注目されてきた。これらの活動を通じて、オルタナティブスペースとしての創造都市金沢が再認識されてきている。

2015年3月の北陸新幹線開業により、多くの来街者を迎え、益々注目される金沢。工芸や伝統的建造物による歴史都市に加え創造都市としての価値にさらに磨きを掛けて魅力を増し、交流人口のみならず、若者の定住促進やクリエイショナルな人材の育成につなげていくには、これまでの実践的手法を分析することを通じた、戦略的な手法を構築することが重要な鍵になると思われる。

(さかもと・ひでゆき

環境デザイン専攻／都市・建築デザイン)

(2015年10月30日 受理)